「相中相高百年史」より

（　戦時体制下の相馬中学校 ８　）

8　学徒動員：五年生（ 相中第 43 期生 ）・・・ペンをハンマーに

（３）　阿部勝郎先生の体験記録

学徒動員中、学校から派遣された阿部勝郎先生は舎監として我々の指導、教育、監督に当たられた。阿部先生は、「紅会総会」にも公私ともにご多忙中にもかかわらず毎回のようにご来駕下され、かつての教え子と動員当時のことを語り合い、長い教員生活の中でも特に忘れ得ぬ想い出として鮮明に記憶されているご様子だった。

（以下は、特に寄稿していただいた、阿部勝郎先生の「学徒動員想い出の記」の抜粋である。）

……　略　……

わが学徒たちは日頃の重労働と耐乏生活を乗り越えて頑張り、そして日曜日を心待ちしている様子だった。その休日は笹木野あたりの果物で空腹を満し、いで湯に足をのばして労を癒したりして何の屈託もなく意気揚々と引きあげてくる。このさりげない元気な姿は実に鮮やかで頼もしい限りであった。

阿部勝郎先生

……　略　……

◇卒業とその後

以上のように塗炭の苦渋を強いられ、食事も勉学も儘にならなかったが、それは時代の流れ、世相からして避け難い悪夢と思うしかなかった。

このような中でＫ君が煙突に登り驚かせたり、Ｍ君が虫垂炎で倒れたり、寮では世話役の東條婆さんに一喝を食ったり……と多少の曲折や出来事があった。しかし、空襲に怯えて右往左往することもなく、また大怪我とか大病の罹患もなく、全員が無事苦難の任務を果たした。このことは実に立派で大いに称賛すべきことである。

そしてこの耐乏生活も遂にピリオドを打ち翌昭和 20 年３月 27 日、会社の講堂に於いて卒業式が盛大に挙行され、私は生徒諸君の長い間のご苦労に対し、衷心より慰労と感謝の意を表したのであった。

そして前述の如く寸暇を得て努力したことが見事に花開き、各国公立大に 60 名、私立大に 39 名と最多の合格者を見ることができた。この事実は全く立派で、県下に本校の存在を示してくれたことは誠に誇りとするところ。就職された諸君は何れも手堅く堅実な老後の生活を保証される職業を選ばれたことも大変よかったと思う。

◇むすび

あの時から星霜実に 50 有余年。その間、さまざまな人間模様というか、人の子の親として子育てや教育、職業上の苦悩などあらゆる喜怒哀楽を体験し、あっという間にお互いに白髪の目立つ熟年になった。

過ぎ来し方の事どもは忘却の彼方に消えたが、感受性に富む青春時代のことは奇妙に、時に鮮明に甦り「俺にもこんなことがあったか……」と今にして、そこはかとなく、そしてひそかにあの頃に想いを馳せて懐旧の情に苦笑するひと時もあるだろう。そのような夢は生ある限り捨てたくないものである。

（選択転記　村山）